



三到図書館 ニュース

2013年10月発行
No.73

J. F. Oberlin University Library

- ◇巻頭メッセージ
- ◇学生へのメッセージ
- ◇旅・留学コーナー
- ◇図書館長が薦める本
- ◇ガイダンス報告
- ◇読書運動プロジェクト
- ◇図書館からのお知らせ

📖 巻頭メッセージ

未知の世界を知るために

ビジネスマネジメント学群准教授・国際センター北米室長 根津 明広

最近の学生はインターネットなどで、必要な情報を簡単に得ることが出来ます。このような便利な環境のお陰で、もはや図書館の必要性がないように感じている人も少なくないと思います。私は、近年桜美林大学の留学のプログラムの仕事に従事しており、日本全国を見渡すと、留学をする学生が減少傾向にあるようです。これも現代の情報過多の時代と関係があるのかも知れません。ここでは、「情報」と「知識」の違いを通して図書館の在り方、留学の意義を考えてみたいと思います。

「情報」と「知識」の違いについて、沢山の人が議論をしています。「情報」とは、「1」と「0」によって値付けられ、「真」もしくは「偽」のはっきりしたデータが基になっていて、その事実をリストにすることで情報化をすると言うことです。情報の例としては、商品の説明やその取り扱い説明、特に皆さんがご存知のように「Google」が提供する説明がそうです。この情報は、多くの人達が無料で獲得できるのも特徴となっています。典型的な例としては、料理のレシピ等は、料理の“ハウツー”を情報として得られます。また、AP通信社に行けば生のニュースを情報として得られます。

これに対して「知識」は、全く別のもののようなのです。知識は、情報が分析され、経験値が加わり、それらが組み合わされることで確立されます。人の行動が付加されることで情報が知識へと変化するので、この人の根本的な行動とは、お金、時間、何かを「インベスト (invest: 打込む)」することだと言われています。例えば、もし皆さんがつかんだニュースの真の分析が欲しいなら、*New York Times* で有料の記事を読むかも知れません。実際にあなたの会社の利益を手助けすることができるトリックを学ぶには、本を買ったり、セミナーにお金を支払っ

たり、コンサルタントを雇ったりすることになります。このプロセスによって情報が、その人個人のものとなることで、知識化されたことになるというわけです。

上記の議論によると、情報はインターネットなどで簡単に入手出来るので、確かに情報獲得の部分では図書館の必要性は減少しています。しかし皆さんにとって知識の獲得の部分が欠落していることにはならないでしょうか。そこで図書館に沢山並ぶ図書を考えてみると、それらは多くの著者がお金、時間、著者自身をインベストして書き上げたものばかりなのです。それらは読者が、それに触れ、著者が分かち合おうとしている彼らの経験値を味わい、知識として獲得されるはずのものです。情報を知識化して行くプロセスは、皆さんの経験が伴いますし、この経験は、新たな自分との出会いが提供されます。新たな知識が自分自身に残り、今までと違った世界観を築きあげることが出来るのだと考えます。

留学もこの意味では、お金、時間、異文化の中で生活する等のインベストがあるので、知識の獲得のプロセスにとっても類似しています。インターネットで得る遠い国の情報とは全く違い、お金をかけて現地へ赴き、時間をかけてそこで住む人達と価値観を分かち合い、お互いにわかり合おうとする努力 (インベスト) を行い、カルチャーショックなどを通して感じる自分の小ささ等を経験し、今まで気付かなかった自分と出会い、そして一人の国際人 (Global Citizen) となっていくのです。図書館には留学とも同様に共通しており、皆さんにとって自身との新たな出会いがあり、豊かな人生を送る為の「知識」が満載なのです。



学生へのメッセージ

書を持って旅に出よう 知らない世界を見に行こう



最近の若者は…などと書くと大人の説教めいた口調になりますが、新聞や雑誌には若者が旅行をしなくなっているという記事が目立ちます。長引く不況による経済状況や若い人たちの安定志向、居ながらにして海外事情が手に取るようにわかるインターネットの普及も影響していると言われていています。しかしやはり百聞は一見に如かずと言うとおり、例えば海外に出かけて自分の目で現実を見ると見ないとでは、理解や経験も違ってくるでしょう。今回の図書館ニュースでは、図書館メディアセンター職員が「未知の世界への誘い」につながる本を紹介いたします。海外への旅、これからの人生など、本を読んで考えてみてはいかがでしょうか？



『ぼくが歩いた東南アジア：島と海と森と』 村井 吉敬 著／コモンズ

図書館メディアセンター 三上 彰

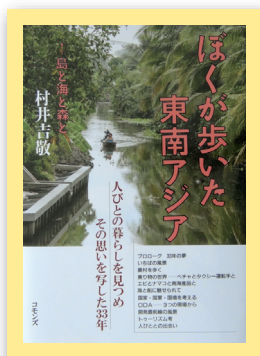
この本は著者が33年間に歩き回った東南アジア各地の様子フォトエッセイです。フィールドワークや研究で撮りためた数万点の写真の中から印象深いシーン約300点を選んだものです。市場（いちば）の風景に始まり、農村や海の風景とその地の人々の暮らし、「国家や国境とは何か？」と問うもの、開発を問うもの…と、多岐にわたっています。

東南アジアのことに興味を持たせてくれて、その魅力を教えてくれたのが、この著者の先生の授業やゼミでした。近くにありながら知らないことが多く、もっと知りたい・知ろうとしなければ、という気持ちと、「海の民（漂海民）や山の民（山岳民族）のビデオを観たり、フィールドワークをしながら楽しく東南アジアのことが学べるよ」という先輩からのおすすめでとって見た授業でしたが、それは、私がその後、東南アジア（特にインドネシア）に魅了されていくきっかけとなりました。疑問に思うことがあったり興味があったら、色々な場所に出かけて行って、自分の足で歩いて・目で見て・その土地で暮らす人々の話を聴いて…というフィールドワークの基本と大切さ、その魅力を教わりました。ゼミの先輩には、大学卒業後にタイに移住して仏教の道に入った人、東ティモールに移住して現地の人たちが経済的に自立できるようにコーヒー栽培のプロジェクトをやっている人…と、行動力のある人が多く、先生からだけでなく、ゼミの先輩たちから学ぶこと・刺激を受けることも多々ありました。

私は桜美林大学で仕事をするようになる前に、お世辞にも働く環境が良いとは言えない会社で2年ほど働きました（もちろん、今は学生や教職員のみなさんと楽しく仕事をさせていただいていますよ）。そこでは、その会社に対する疑問だけでなく、日本の社会や経済の仕組みに対する疑問も多々感じました。

そんな時に、インドネシアでフィールドワークをした経験は、「地球の上には、日本とは別の世界があって別の暮らしをしている人もたくさんいる。日本のビジネス社会の常識がすべてではない。」と思うことができ、それは心の支えにもなりました。

大学生のうちに今の日本の生活とは別の世界を見ておくことは、その後の人生の様々な場面において役に立つことも多いと思います。夏休みや春休みを利用して出かけたり、あるいは留学して、別の世界を見て・肌で感じておくことをおすすめします。



請求記号：292.3/Mu41



『深夜特急1、香港・マカオ』（新潮文庫） 沢木 耕太郎 著／新潮社

図書館メディアセンター 村上 祐司

この本を読んだ多くの人から、今の自分の立場をすべて投げ捨てても、旅に出たくなると思わせてくれる本であると聞いていましたが、実際に自分も読んでみて、今すぐにでも、海外へ放浪の旅に出たいという強い衝動に駆り立てられました。旅先で通過する風景や人々との儂い出会いの数々等が非常にうまく描かれており、特に、香港の毎日が祭りのような街の熱気や人々の活気は情景が目に見えてくるようでした。また、マカオの賭博場の白熱した緊張感は、まさに幻想の世界のように感じられ、ふだんはギャングをほとんどしない著者が、なぜのめり込んでしまったのかということが分かるような気がしました。



また、この作品が作り話ではなく、著者である沢木耕太郎自身が感じ、体験したことが書かれてあるというのも、読者に強いインパクトを与えているのではないかと思います。それに、難しく書かれている本ではなく、軽快なテンポで書かれているところも非常に読みやすいように感じました。

いわゆる「観光旅行」ではなく、「放浪の旅」を試みたいと考えている人には、とても楽しめる内容です。ぜひ学生時代に読んでおいてほしい1冊です。

請求記号：SB/さ-7-5, 読書運動2012



『なるには Books』 ペリかん社

図書館メディアセンター 鬼沢 恵子

小さい頃「ライダーになるんだ!」「パン屋さんになりたい!」といった夢はありましたか?今も、“これになりたい!”という夢はありますか?

皆さんの年代になってくると、その「夢」の職業に就くため、資格を取得したり、授業を選択したりする方も多いでしょう。しかし興味はあるけれど、どんな職業か詳しくはわからない方も多いと思います。

そんな未知の職業への興味・好奇心を解説してくれるのが、このシリーズです。

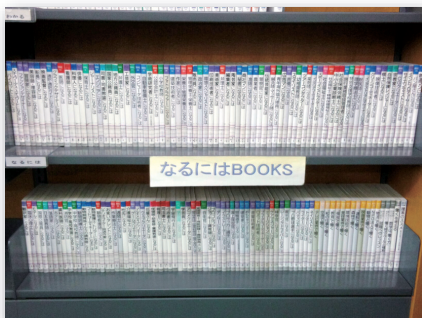
さすがに「ライダーになりたい!」への橋渡し本はありませんが、パン屋さんを含め、様々な職業をこのシリーズで紹介しており、現在その職業で働いている人のインタビューや、業界の動向、どんな人が向いているのか、どうすればその職業に就けるのか、など、1冊読めばその職業の概要がわかるようになっています。

特に業界の動向は、詳細とはいかないまでも、ちょっとした裏事情も含めて書かれています。

このシリーズは本当に様々な職業を扱っており、読み物としても楽しめる本ですので、是非手にとってみてください。

もし、図書館司書に興味がある方がいらっしゃるならば「図書館司書・司書補になるには」という本もありますので、一読ください。

そして、この文章が皆さんの「未知なる世界へ」の第一歩となれば幸いです。



請求記号：なるには（本館3F資格就職）

旅・留学コーナーの紹介



一瞬だけ憧れの国への旅行、または留学を想像してみてください。どこに行ってみたいですか？どんな体験をしたいですか？なんだかワクワクドキドキと心躍るような気持ちになりませんか？その気持ちを大切に、準備期間も楽しみつつ、図書館にある資料や情報をフル活用してください。必ず役に立つ本に出会えると思います。

皆さんにお馴染みの旅行ガイドブック『地球の歩き方』のとなりに新しく「留学コーナー」を設けました。このコーナーには日本語で書かれた留学に関する本、大学選びから必要な手続きについて書かれている本などがあります。また、日本語だけではなく、ELPの先生方の推薦を受けて、英語で書かれた『Lonely Planet』の旅行ガイドブックも揃えました。日本では『地球の歩き方』は旅行ガイドブックの定番ですが、欧米ではこの『Lonely Planet』が大きなシェアを占めています。

「旅行」と「留学」もちろん目的はそれぞれ違いますが、自分の母国を離れ、違う国の文化や習慣、言葉などに触れるという意味では同じかもしれません。旅行に行く場合、多くの人は、自分が行こうとしている国の情報を集めるといいます。例えば、通貨、交通手段、宿泊施設、食事、観光スポットなどさまざまです。「留学」の場合は、旅行とは少し違うのは滞在期間と勉強という目的、宿泊先はホテルではなく、ホームステイや寮ということになります。自分が行こうとしている国について基礎的な情報を調べていく分には旅行ガイドブックでもそれなりに情報はまとまっていて参考になるのではないのでしょうか。

留学をする場合、行く前の準備としてその国の言葉を少しでも多く聞き取れば、話せればと思うのは当然だと思います。そのため、留学コーナーにはいくつかの外国語会話の本も置いています。CD付の本もありますのでリスニングを強化したい場合などにも是非使ってみてください。留学先では日本の文化についても聞かれることは多くあると思います。それらを例えば英語で説明できますか？こちらも留学前には是非チェックしたい内容の一つです。図書館では日本に留学している学生向けに日本文化を英語で紹介している本も揃えていますので、合わせて読んでみてはいかがでしょうか？

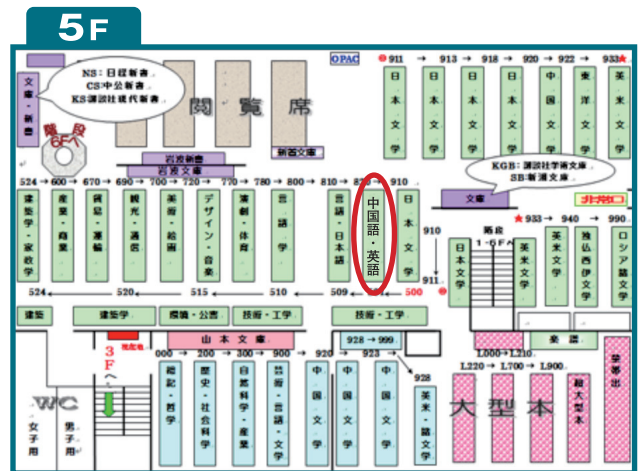
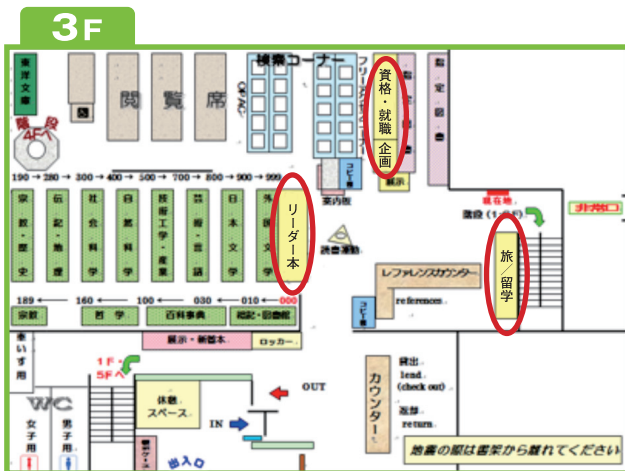


【留学/英語関連資料のある場所】

- ▶本館3F 留学
- ▶本館3F 資格就職（英語）
- ▶本館3F リーダー本
- ▶本館5F 830番台

【中国語関連】

- ▶本館3F 資格就職（中国語）
- ▶本館5F 820番台



(図書館メディアセンター 糸数ナンシー美香)

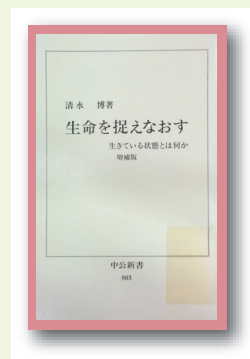
若い頃に読んで感銘を受けた本

図書館長 秀島 武敏

『生命を捉えなおす
生きている状態とは何か』 (中公新書)

清水 博 著 / 中央公論新社

請求記号 : CS/503



わたくしが紹介するこの本は学生時代というよりも教員になり立ての時代に読んで感銘を受けたものです。わたくしの専門は化学のなかで生物物理化学という分野です。研究テーマは「生体物質による振動（リズム）反応」です。振動反応という聞きなれない言葉かもしれませんが。化学反応では一般に時間とともに反応物が次第に減少し、生成物が増加していきます。

しかし平衡から大きくかけ離れた状態では、反応物および生成物の濃度が時間とともに増加したり、減少したりする現象が起こることがあります。これを振動反応といいます。わたくしの研究は生命現象のひとつの特徴であるリズム反応を化学反応の立場で解き明かそうとするものです。この本はまさにわたくしをこの分野に導いてくれたのです。

生体には二つの状態があります。それは生きている状態と死んでいる状態です。この違いをこの本は

細胞から、組織、器官、個体、社会、生態系に至る様々な系に固有の生きている状態が存在するという立場に立って、やさしく解説してくれています。生物を作っている分子の世界を解き明かすだけでは生命現象は説明できないのです。方解石のような結晶をもったものも生物もどちらも秩序構造をもっています。

しかし方解石の場合は静的秩序とよばれるものですが、生体の場合は絶えずエネルギーや物質が流れ込みかつ排出されることによって秩序がつくられるので、動的秩序とよばれるものです。生物は自律的に構造を形成できるのです。

また生体のリズム現象もこのような状態から生じるのです。生命を捉えなおすには生物学のみならず化学、物理学、情報など多くの知識が必要であることがこの本を読むとわかります。ぜひ読んでみてください。

(リベラルアーツ学群教授 化学専攻)

2013 年度春学期 図書館オリエンテーション・ガイダンス実施報告



2013年度春学期は、オリエンテーション期間中に健康福祉学群、芸術文化学群、大学院、RJ留学生、留学生別科の新生約800名に対して図書館オリエンテーションを実施しました。4月から6月には、リベラルアーツ学群の1年生を対象に、「LAセミナー」の授業で図書館ツアーとOPAC（蔵書検索）・新聞記事データベース検索の説明と検索実習を行いました。また、同時期、ゼミ単位、クラス単位で、レポート・論文作成のための情報検索ガイダンスも行い、今回は500名以上の参加がありました。

そのほか、授業で図書館ガイダンスを受けていない学生のために、図書館ツアー、蔵書検索、新聞記事検索、雑誌論文検索などテーマ別のガイダンスを開催しました。また、新たに今年度より、LA学群GO（グローバル・アウトリーチ）プログラムにおいて、留学予定の学生に向けてのガイダンスを始めました。

ガイダンスの頻度が増えるにつれ、自らOPAC検索し、館内案内図で場所を確認している学生が見られるようになりました。また、レファレンスカウンターにも「〇〇関係の本はありますか」とか「論文の探し方を教えてください」といった質問をしてくる学生も増えてきています。図書館員としては、そうした変化をうれしく思うと同時に、きちんと応えられているかといった責任も感じています。

■オリエンテーション期間に実施

対象者	開催日	時間	参加人数	説明方法	備考
健康福祉学群	4月 2日(火)	10分程度	約250名	パワーポイントによる図書館利用説明	
芸術文化学群	4月 3日(水)	20～30分程度	約290名	パワーポイントによる図書館利用説明	
大学院(全体)	4月 6日(土)	30分程度	約160名	口頭による図書館案内	
大学院(町田キャンパス)	4月 8日(月)	60分間	8名	図書館ツアーと検索実習	自由参加
RJ留学生	4月 9日(火)	60分間	約65名	パワーポイントによる図書館利用説明と2グループに分かれての図書館ツアー	
留学生別科	4月 10日(水)	90分間	6名	パワーポイントによる図書館利用説明と図書館ツアー	
大学院(四谷キャンパス)	4月 10日(水)	60分間	18名	図書館利用説明と実際にPCを操作しながらの検索説明	

■授業時間に実施

対象者	開催日	時間	参加人数	説明方法	備考
BM学群 フライトコース	4月30日(火) 6月24日(月)	90分間	2クラス 36名	検索実習、図書館ツアー	
LA学群	4月22日(月) ～6月18日(火)	90分間	64クラス 約870名	検索実習、図書館ツアー	LAセミナーの授業で希望する教員に対して実施
【情報検索ガイダンス】 2年生以上が中心	4月16日(火) ～7月24日(水)	90分間	25クラス 約508名	レポート・論文作成に 向けての検索実習等	教員からの申し込みによりゼミやクラス単位で実施
【個人申込による テーマ別ガイダンス】	6月17日(月) ～6月28日(金)	40分間	4回 5名	図書館探検、本の検索、新聞記事の検索、 雑誌記事の検索、他大学図書館利用法	

■他部署と連携

対象者	開催日	時間	参加人数	説明方法	備考
留学予定の学生	7月2日(火)	45分間	70名	PCによる図書館利用説明	LA GOプログラム

■DB講習会

対象者	開催日	時間	参加人数	説明方法	備考
教員・大学院生	6月26日(水)	各90分間	3コマ 22名	NEEDS-FinancialQUEST講習会	自由参加

◇ 秋学期の図書館ガイダンスについてお知らせします ◇

ビジネスマネジメント学群では、「社会人基礎」において図書館ツアーと蔵書検索・新聞記事データベース検索の説明と検索実習を実施します。そのほか、2年生以上の学生を対象に、ゼミ単位・クラス単位の「情報検索ガイダンス」も実施します。また、レファレンスカウンターでは、個人別に卒業研究・卒業論文作成のための文献や情報の検索方法を紹介する「卒論・卒研作成支援」も行っています。図書館が少しでも皆さんの学習のお手伝いができるように努めていきたいと考えています。

(図書館メディアセンター 矢部知美)

 読書運動プロジェクト

図書館読書運動プロジェクト活動報告

4月から新しい学生たちも参加して、2013年度の図書館読書運動プロジェクト（以下、読プロ）の活動が始まりました。昨年度から継続して活動に参加している学生たちに加え、新たに1年生を含む新メンバーが参加、現在は7～8名の規模で活動中です。

4月から始まるリベラルアーツセミナーでは、図書館員が行う図書館ツアーの中で、学生メンバーたちが交替で読プロの説明と新メンバーの参加を募りました。これがきっかけで読プロに参加した学生もいます。

今年の読プロ本棚には、今までの小説主体のラインアップからちょっと視点を変えて、哲学、社会科学などのジャンルをコンパクトにまとめた「新書」を選んで展示、貸出しを行っています。「小説もいけれど、2年生になったら視点を変えて、学問の入口になるような新書を読んでみよう！」という学生メンバーの発案により、この企画がスタートしました。9/30の時点での貸出し状況は、下記の表にあるように、のべ147回、140人（うち学生134人）となっています。

読んでみよう新書！貸出しランキング				(集計期間2013/4/1～9/30)	
順位	資 料 名		回数	人数	
1	大学の思い出は就活です（苦笑）：大学生生活50のお約束（ちくま新書）／石渡嶺司著		19	19	
2	ツイッターってラジオだ！：ナンバーワンツイッター番組のパーソナリティがつぶやくあなたの味方を増やす59の方法／吉田尚樹著、ニッポン放送編		14	14	
3	「勉強しろ」と言わずに子供を勉強させる言葉（PHP新書）／小林公夫著		14	13	
4	武器としての決断思考（星海社新書）／瀧本哲史著		13	13	
4	ルポ若者ホームレス（ちくま新書）／飯島裕子、ビッグイシュー基金著		13	13	
4	哲学のことは（岩波ジュニア新書）／左近司祥子著		13	13	
7	ルポ差別と貧困の外国人労働者（光文社新書）／安田浩一著		12	11	
8	社会を変えるには（講談社現代新書）／小熊英二著		10	7	
9	翻訳夜話（文春新書）／村上春樹、柴田元幸著		9	8	
10	独立国家のつくりかた（講談社現代新書）／坂口恭平著		8	8	
11	宇宙は何でできているのか：素粒子物理学で解く宇宙の謎（幻冬舎新書）／村山斉著		8	7	
12	マンガの遺伝子（講談社現代新書）／斎藤宣彦著		7	7	
12	国家は僕らをまもらない：愛と自由の憲法論（朝日新書）／田村理著		7	7	
			147	140	

今のところ貸出し冊数、人数ともにトップなのは『大学の思い出は就活です（苦笑）：大学生生活50のお約束』（ちくま新書）です。この本には、せっかくの大学生生活なのに、最後は「大学時代の思い出は就職活動でした（苦笑）」などということにならないよう、大学生生活を有意義に過ごすためのポイントが50の項目として紹介されています。大学生協の売り上げでも根強い人気を誇る一冊ですが、やはり学生たちの興味や関心を引く内容でもあり、多くの学生に読まれているようです。2位の『ツイッターってラジオだ！：ナンバーワンツイッター番組のパーソナリティがつぶやくあなたの味方を増やす59の方法』は、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）としてすっかり定着したツイッターの解説本です。これも学生の関心を引くテーマなのでしょう。もっとも現在は新たなコミュニケーションツールとしてLINE（ライン）を使っている学生も急増しており、LINEの解説本があればそちらも読まれるのではないかと思います。私たちとしては学生たちに、ツイッター、FacebookなどのSNSをつかひこなす技術だけではなく、情報リテラシーも同時に身につけてもらいたいものです。第3位『「勉強しろ」と言わずに子供を勉強させる言葉』（PHP新書）は、学生向けというよりは教職員や親の世代向けに書かれているのですが、意外にも学生たちに多く読まれており、おそらく教育学（教職教育）専攻学生や教育に興味を持つ学生たちの支持を得たのではないかと考えられます。

これらの他にも『武器としての決断思考』（星海社新書）、『ルポ若者ホームレス』（ちくま新書）、『哲学のことは』（岩波ジュニア新書）、『ルポ差別と貧困の外国人労働者』（光文社新書）、『社会を変えるには』（講談社現代新書）という、ここ数年に書店や読書ファンのあいだでも話題となった新書が上位にきています。特に気鋭の社会学者・小熊英二氏が著した『社会を変えるには』は、日本の社会運動の歴史と可能性を説く話題の新書です。「新書」でありながら500pを超えるボリューム、決して読みやすいとはいえない「新書」も、学生たちは手にとっています。

学生メンバーを代表して3人が読プロに関するコメントを寄せてくれました。これから年末に向けて、学生メンバーたちは、恒例の読書マラソン桜美林コメント大賞選考や表彰式イベントの企画と準備に取りかかっています。さて今年はどうな活躍を見せてくれるでしょうか。

■今年度は新入生や先輩などのメンバーが増え、読プロはさらなる盛り上がりを見せています。会議に行く度に新たな参加者がいるのは、名前を覚えるのが大変だけどそれ以上の嬉しさを伴いますね。毎年年末に行われるイベントもこの調子で活気のあるものにしていきたいと思います。（酒井明砂子／総合文化学群2年）

■夏も終わりに差し掛かり、秋の訪れを感じ始める今日この頃。「読書の秋」と言いますが、秋学期には読プロの一大イベント、コメント大賞の表彰式も行われます。Twitter（@obirin_reading）などで活動情報も掲載しておりますので、興味のある方はぜひご覧ください！（日下綾菜／リベラルアーツ学群3年）

■読プロは、読書以外にもたくさんのごことをしています！普段は一人でする読書をみんなでする、読書を通して人とつながる、そんな経験してみませんか？イベント運営も人となつがるチャンスです！忙しいときもありますが、それは充実の証。大学で世界を広げたい！そんなアナタを読プロは待っています☆（代表：石井優美／リベラルアーツ学群3年）

（図書館メディアセンター 佐々木俊介）

新規データベースのご案内



2013年4月より2つのデータベースが仲間入りしました。

図書館ガイダンスでは主に新聞記事データベースや雑誌記事データベースの紹介をしていますが、下記の2つのデータベースは紹介する機会がありませんのでこちらで、紹介させていただきます。両方とも有用なデータベースですので、どうぞ活用してください。

◆ NEEDS-FinancialQUEST2.0

提供元：日本経済新聞デジタルメディア
利用できる場所：学内
同時アクセス数：10



日経NEEDSに収録される企業財務、株式・債券など様々なジャンルの経済データをインターネット経由で取得できるデータ検索サービスです。

専門的用語が多いため、経済を学んでいない方には少し難しいデータベースとは思われますが、使いこなすことができれば、企業の経営状態を知ることができ、就職活動にもきっと役立ちます。

◆ 研究社Online Dictionary (KOD)

提供元：研究社
利用できる場所：学内限定
同時アクセス数：5



研究社発行の英和系辞典8タイトル、和英系辞典6タイトルに加え国語辞典（スーパー大辞林 3.0）、用例系辞典（新編英和活用大辞典）を横断検索できるオンライン辞書です。用語数は年々増えていますので、英語学習をされる方には最適な辞書かと思われます。

このデータベースでは「カタカナで引くスペリング辞典」という少し変わった辞書も搭載されています。普段会話で使っているようなカタカナ語（“ハンバーガー”、“アーティスト” etc）を検索すると、『“hamburger”、“artist”』のように英語のスペリングが表示されます。

「カタカナではわかるけど、実際の単語スペルがわからない」というときには是非使ってみてください。

新潮文庫本を増やしました

小さくて持ちやすく、小説が多いので読みやすい、という理由からか、利用頻度の高い新潮文庫。この夏、本が増えました。

新しく増えた本の中からいくつかピックアップしてご紹介したいと思います。

▶ オー！ファーザー 伊坂幸太郎著 (SB/い-69-7)

主人公の由紀夫は高校生。この由紀夫が数々の事件に遭遇します。それを助けてくれるのが、由紀夫の父親である4人です。個性豊かな4人の父親と由紀夫がどのような展開を迎えるのでしょうか。

▶ 歴史を考えるヒント 網野善彦著 (SB/あ-73-1)

“日本”はなぜ“日本”という国名になったのか？ “百姓”は“農民”とは違う？
見慣れたことばがなぜそのことばになったのか、それを知ることができる一冊です。

● 編集後記 ●

雪の研究で知られる物理学者・中谷宇吉郎（1900～1962）が、1940年に満洲国奉天（現在の中華人民共和国遼寧省瀋陽市）を訪れたときの印象。／日本人が経営する大きな商店は沢山あったが、彼の目にはなんとなく影の薄い印象を残したのに対し、中国人街にある中国人の商店については「間口が狭くて薄汚く見えるにもかかわらず、奥行はずっと深く、そして商品が店一杯に詰まっている感じであった。こういう店と、新市街の表通りにある日本人の大商店とを比較して、その経常費の差を調べて見たらというようなことも考えられた」と記している。（「満洲通信」『アラスカの氷河：中谷宇吉郎紀行集』岩波文庫所収）／何気ない街の風景から、島国から大陸に進出した頼りなげな日本人と、大陸でしたたかに生きる中国人の違いを見抜いた文章である。慧眼と言っている。私たちも走馬看花に終わらず、そこから何かを見出すような「旅」をしたいものである。（S）